

令和7年度 佐用町 地域公共交通会議・公共交通対策協議会 会議録

■日 時：令和7年9月29日（月） 14：00～15：30

■場 所：佐用町役場西館2階 防災会議室

■出席者：<委員>委員出席23名、委任状出席6名、欠席0名 <事務局>2名

■傍聴者 3名

■議 事

1. 開会

2. 会長あいさつ

- ・合併時、人口減少・少子高齢化が進んでいく中で、地域の公共交通をどう構築していくか大きな課題の一つであり、旧町ごとの各種取り組みを調整し、統合した地域交通体系を構築した。
- ・現在ではこれまでの取組を継承・統合しつつ、運行形態の見直しや効率化を図り、新しい形態の地域交通体系を作り上げてきた。タクシー利用助成制度、コミュニティバス運行、デマンド型交通を組み合わせることで、公共交通サービスの維持を図っている。
- ・また、佐用町においては、JR姫新線や智頭急行が基幹交通として役割を果たしており、その維持も非常に重要。
- ・免許を持たない層に対する配慮や、運転が難しくなる高齢者への対応など、幅広い層のニーズが存在する。生活を支えるインフラとして、公共交通は水道等と同じように重要な存在。
- ・本日はこのような現状を踏まえ、みなさんとともに、今後の交通施策のあり方についてご協議いただきたい。

3. 協議事項

事務局より説明

- (1) 令和6年度事業実績について (資料1 P 1～P 6)
(2) 令和7年度事業について (資料2 P 7～P 9)

質疑・応答・意見など

○委員A: さよさよサービスや江川ふれあい号は料金面で非常に安価に設定されていることから、タクシー事業と競合している。

サービス全体の運営形態や役割分担について、タクシー事業者にとってもより持続可能な仕組みの検討を求めたい。

同サービスで使用されている車両は白ナンバーと、民間タクシーの緑ナンバーとで公平性に課題があるのではないか。国においてもしっかり検討していただきたい。

(会長)：さよさよサービスは、地域交通の空白地帯を補完する公共交通施策として、地域住民の移動を確保するために設計・運用している。その意義を踏まえつつ、地域のタクシー事業者の置かれた状況への配慮を大切にし、隔日運行としている。

現行の制度運営については、法的には適正な手続きを踏んで構築されたものである。また、移動弱者支援という公共性の観点から、行政施策としての役割を継続していく責任がある。

タクシー事業者の経営状況に関する懸念は十分理解しているものの、これまでの歴史的

経緯や社会的背景を踏まえた制度設計である。今後は相互に利益をもたらす仕組みに焦点を当てた調整を検討していきたい。

○委員 B：タクシー運賃助成について、上限額や販売冊数の見直しをお願いしたい。さよさよサービスがなくなった場合に、今さよさよサービスを利用している1万人の利用者をタクシーで全部カバーするのは難しいため、サービスを全部辞めて欲しいというわけではないが、私たちタクシー事業者が協力できる部分があれば、一緒に考えていきたい。

(会長)：距離で助成額を調整する等も方法としてはあるが、制度が複雑化し運営上の他の問題が発生する原因にもなってしまう。しかし、社会の状況が変化している中でこれまで通りというわけにもいかないと認識している。利用者にもタクシー業者にもメリットがあるような方法がないかという事は検討していく。
今後、まだまだ人口も減っていく。町民、地域のため、なんとか地域交通を維持するために、これからもみなさん協力を願いしたい。

(神戸運輸監理部兵庫陸運部)：

公共交通施策は地域事情に応じて柔軟に対応することが求められる。一方タクシー事業者が持つプロフェッショナルな安全性や運行技術は高く評価されており、その活用も検討課題であるのではないか。

地域内の公共交通サービスが全体としてミスマッチを起こさず、適切に連携できる仕組みが重要である。そのため、将来にむけた見直しも検討しつつ、引き続き、町、事業者、住民の間で合意形成を図りながら進めていっていただきたい。

4. その他

(事業者からの情報提供等については特になし)

(事務局) ウイング神姫様より、山崎-西河内線の8時38分山崎発の1便について減便の相談があったが、主に利用されている通学の用途には影響がない事から、やむを得ないものと考えている。

5. 閉会

副会長の閉会あいさつ

- ・交通空白地の問題は国の施策にもなる非常に悩ましい問題。
- ・日本全体で人が減少している中、佐用町の「縮充」という考え方方は非常に良い言葉だと思った。
- ・理想的な公共交通の構築には時間を要するが、改善を継続することが大切である。
- ・多様な立場の人々が集まり議論するこの公共交通会議を、地域の未来に向けた重要な場と位置付け、地域住民の幸福を目指した交通の充実に寄与することを期待している。